

こども心身だより



第 155 号 - 平成 31 年 3 月発行

巻頭言

戦後日本社会では「母国の伝統・文化・歴史」を無視/否定することが「良心的」「民主的」「知識人（インテリ）」と信じている人々が多すぎると、私は常に主張し、これが現代日本社会の悪化を促していると考えてきました。昨今の近隣反日国の目に余る世界常識から逸脱したわが国への理不尽な攻撃や振る舞いは、もちろん反日国の勝手ですが、ここまで歯止めなくエスカレートするのは、むしろわが国の母国の誇りを失った思想が応援していると思っています。

ですから、私はこれまでも意識してわが国の伝統・文化・歴史に価値を置き、強調する立場を貫いてきました。その一つとして、私は日本固有の元号を大切にしてきましたから、私の書く文章はいかなる場合も元号と西暦を併記させています。ところが、平成に入った頃から世間では元号表記が年々少なくなり、最近では元号表記のあるものがほとんど無くなり、時には提出する書類に西暦で記入するよう求められる場合さえあり、わずかに役所の出す公文書にかろうじて元号が残っているだけになりました。今や元号は風前の灯とを感じるようになり、私はよけいに必死で元号表記を続けてきました。ところが、今上天皇が退位をされると昨年宣言され、それが認められて今年の4月で平成が終わると決まったとたんに、あちこちで「平成最後の0000」と言われ始めました。今や「平成」大安売りで、この騒動にあきれた私は「それほど平成が好きなら、終わる直前に言い出すのでなく、この30年間常に平成何年と書いたり（印刷したり）、言ったりして欲しかった」と叫びたいのです！

江戸時代までは何か困ったことがあると、「言霊の国」らしく元号を直ぐに変えていましたから、私たちは明治以前の時代は元号で言われてもあまりはつきりと判りません。元号は「大化の改新」の「大化」から始まるのですが、特別な時期の元号は出現した事件と共に私たちの記憶にあります。江戸時代に限っても「元禄」「天保」などから最後の「慶応」まで、馴染みのある元号とその時代の特徴が、その名前を通して記憶に刻まれています。まさに日本の大切な文化です。明治維新以降は天皇陛下の御代が変わると新しい元号が使われるようになり、一つの元号が長く続くことで判りやすくなり、より時代の特徴が元号で表わされるようになりました。無味乾燥な100年単位の「世紀」を言う西暦より、よほど日本的で文化の香りがするので、これこそ伝統の善さと考えます。

しかし、一方で「今から何年前」というような数え方には、元号が変わるととたんに難しくなります。昭和が永く60余年続いて平成になると、昭和生まれは不便に思う人が多くなり、平成に変わった後に元号が少しずつ使われなくなると、私は考えています。確かに「今から何年前」というのは、元号が変わると判りにくくなると同時に、外国の出来事と日本の出来事を対比する

時にも頭をひねります。しかし、伝統や文化を大切に考えれば、元号を単純に破棄するものではないのは確かです。近代に限っても明治、大正、昭和、平成と変わり多くの人が三つぐらいの元号を体験するので、年代を考えるのは誰にも難しくなります。私のように昭和生まれの人間の中には、平成になっても「昭和で言うと何十年」と言い続けて何年前かを数えている人も少なからずいました。

私は母国に誇りをもち、その伝統や文化を大切に思うので、日常生活の不便さは元号に西暦併記をすることで解消すると考えています。この、平成の終わりの時期に「平成の大安売り」をするのなら、次の新しい元号を、登場した当座だけの大安売りでなく、これから常に使うことを考えてもらいたいと希望しています。(富田)

定例学術研究会

平成 31 年は『発達障害児の自立を支える社会資源』を年間テーマといたします。
現時点で以下の内容を予定しています。

開催予定日	内 容
360 回： 2 月 8 日 (金)	ソーシャルスキルトレーニング 大対 香奈子先生 (近畿大学総合社会学部 准教授 臨床心理士)
361 回： 3 月 8 日 (金)	大学における学生相談・支援 近森 聡先生 (関西大学 臨床心理士)
362 回： 4 月 12 日 (金)	若者支援・就労移行支援 松浦 宏樹先生 (み・らいず2 実践研究所副所長)
(* 363 回： 5 月 25 日 (土) ~5 月 26 日 (日))	[特別回：こども心身セミナー] 開催場所が異なり、別途参加費用が必要です。 詳しくはこども心身セミナーの案内をご覧ください
364 回： 6 月 14 日 (金)	母子生活支援施設での取り組み 小林幸子先生 (ルフレ八尾 主任)
365 回： 7 月 12 日 (金)	虐待支援・ペアレントトレーニング 伊藤悠子先生 (NPO法人 子育て運動えん 理事)
366 回： 9 月 6 日 (金)	児童心理治療施設での取り組み 星野 匠先生 (児童院 臨床心理士)

※10月、11月は交渉中です。

〔開催日〕 原則として第2金曜日の19:00~20:30

〔会場〕 エルおおさか

〔参加資格〕 子どもに関わる専門職の方、大学生・大学院生（守秘義務を有する方）

〔参加費用〕 通年参加（12,000円/年）を基本としますが、会場定員に余裕がある場合は単回参加（3,000円/回）も受け付けます。必ず事前にお申し込みの上ご参加下さい。

〔参加申込〕 参加をご希望の方は、必ず事前にお申し込みをお願いいたします。

【第360回印象記】

今年度の定例学術集会は、「発達障碍児の自立を支援する」ために、どのような社会資源があり、それをどう有効に活用するかをテーマに掲げました。初回の2月は近畿大学総合社会学部/臨床心理士の大対香奈子先生に、ソーシャルスキルトレーニング（SST）の基礎理論と実践のお話をして頂きました。ソーシャルスキルとは人間関係の形成と維持に不可欠な知識や技術ですが、「どの場面で」「どの人に対し」「どうふるまう」という文脈に左右されるので、具体的に定義することはできません。機能的な対人相互作用には、場面情報の読み取り、感情の統制、経験に基づいた社会的スキルの実践が必要であり、それが揃って初めて好ましい対応となります。SSTは知識として修得するだけでなく、場面を設定し、モデルを見せ、実際に練習し、見返すという流れで行う実践訓練が大切です。場面はよく起こるトラブルや本人の現在・将来の必要性に合わせて設定し、まず良くないモデルを見せ、どこが悪かったか、次に理想的なモデルを見せ、どこが良かったかを検討します。その過程で教えるスキルを具体的な行動に置き換えます。それに基づいて実践させ、できているところをほめるという訓練を、難易度を変えた場面設定で反復します。また重要なのはそれを実生活の中で実践することで、本当に身に着けていくことです。

支援の基本原則は「不適切な行動を規則で減らす」のではなく、「どう行動すれば不適切を適切に変え、適切な行動を増やせるか」であること、そのためのSSTであると思いました。

(Y. Y)

用語解説 「分離個体化期」

この難しい言葉は、マラーという精神科医が乳幼児の母子関係の発達を観察して名付けた学術用語です。つまり母親から分離して子どもが自己を確立するプロセスを表し、およそ0歳〜3歳までの間に達成すると言われます。

0歳〜1歳半の間は母親の存在を意識し、他者と違うことが判ります。その後3歳までの間、記憶能力の発達に伴い、母親にくっついた離れたりを繰り返し、心の中に母親のイメージがしっかりと定着します。その結果安心して母親から分離することができ、安定した自分の感覚が得られると言われます。

第11回こども心身セミナー

今年のこども心身セミナーは客員講師に岡田俊先生（名古屋大学医学部附属病院 親と子どもの心療科准教授・児童精神科医）をお迎えし、以下のような内容で開催します。

発達障碍の精神医学－併存症とその表現をめぐって・発達障碍のある子どもの育みを支える
毎年好評の客員講師を囲む会、セミナーのテーマに沿った映画上映、自律訓練法の体験、笑いヨガなどは引き続き実施予定です。

【参加要項】

対象；医療関係者・教育関係者・心理関係者と専門の大学院生等

日時；平成31年5月25日（土）～26日（日）1泊2日

会場；ホテルフクラシア大阪ベイ（大阪南港）

（旧ホテルコスモスクエア国際交流センター）

新大阪から約30分（大阪メトロとサークルバス利用）

関西国際空港から約50分（リムジンバス利用）

費用；35,000円／1泊2食付

（当研究会会員及び過去のセミナー参加者は32,000円）

原則としてツインルームでの受付となります。シングルルームは数に限りがありますので、お早目にお申し込みください。（シングルルームの場合、5,000円追加となります）。

※日本小児科学会、日本心身医学会の認定医点数と日本小児科医会「子どもの心相談医」の研修更新点数が認定されます。

案内チラシ（申込書付）をご希望の方は、こども心身医療研究所までお問合せください。
詳細はホームページでもご案内いたします。

ご寄付をいただいた方々（平成30年12月～平成31年1月）

細川禎子様 並川徹様 豊中市立南桜塚小学校様
大阪YMCA様 帝塚山学院大学大学院様 他若干名様

私たち社団法人では多くの方々のご理解やご協力に支えられて活動を続けております。
これからもよろしくお願い申し上げます。

ご寄付振込先◆郵便振替 000930-6-98381

◆銀行振込 三井住友銀行 大阪本店営業部 普通 3180573
りそな銀行 堂島支店 普通 2310713

掲載内容についてのお問合せは

一般社団法人 大阪総合医学・教育研究会 こども心身医療研究所
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-4-6 Tel.06-6445-8701 Fax.06-6445-7341